

ちょっと危ない色艶都々逸  
笑って許して！ Part6 短  
冊本



ゆうほ

バカだねお前は 勝ち目はないよ  
さっさと降参 しちまいな

さくら

降参するなら 白旗あげて  
足をあげたら まだやる気

ゆうほ



突と言う字を

よくよく見れば

穴は大きい

ものでつけ

ゆうほ



さくら貝など 見た目はいいが  
取り扱いに 注意して

さくら

料理裏技 駅弁いかし  
貝にごぼうを そえてだす

ゆうほ





指をからめて

あやとりあとは

恋のあやとり

心とる

ゆうほ



遠い昔の 恋人しのび

今夜は呑みたい マルガリータ

さくら

私のまごころ あなたに見せる

真っ赤な心 ブラッドマリー

ゆうほ



事故の後には

哀れな人と

トカゲのしっぽ

残るだけ

ゆうほ



珍しいわね 改心したの  
雪が降りやなか しいけどね

さくら

秋の天気か おまえの改心  
何を信じて よいのやら

ゆうほ



手切れ金だと  
くれたはよいが  
雀じやなくて  
蚊の涙  
ゆうほ



琥珀のグラス おまえも飲めよ

俺も辛いさ さよならは

リーベ

グラスに沈んだ さよなら飲んで

そつとレシート 置いて去つ

ゆうほ





鐘に撞木は  
打ちよで違う  
こよいねの刻  
良い音色

ゆうほ



ちよつと待つてよ 中にはきつと  
役に立つもの あるかもね

さくら

まだまだ役立つ おまえの体  
年金手帳を じつと見る

ゆうほ



嘘をつく人

口上書きは

人の為にと

偽そうする

ゆうほ



さくらの花の ひとひらさえも  
散らしてならぬ 夜の風

さくら

さくらの花と わたしの恋を  
両手囲って 君に見せ

ゆうほ



御用批評家

テレビでしゃべる

金の轡(くつわ)が

見え隠れ

ゆうほ



どうして夫を主人と言うの  
 他に呼び方ないかしら  
 さくら  
 うちじや五様 外出りやチヨンと  
 印つけなきや 浮気する  
 ゆうほ





か  
つ  
て  
ほ  
し  
い  
の  
さ  
と  
り  
と  
ゆ  
と  
り  
の  
ま  
い  
し  
と  
く  
れ  
し  
や  
っ  
き  
ん  
と  
り

ゆうほ



さくら色した お酒を呑んで  
なんと別れを 告げようか  
さくら  
あなたと離れ 私を知った  
さくら色した 夢進った  
ゆうほ



金に糸目を

付けな

いは

ずが

金の

切れ

目が

縁切れか

ゆうほ



やっばり主人に しときましようよ  
立てておだてて 樂をする  
さくら  
うちの主人は むかしは種人  
いまは酒人で 趣味人に  
ゆうほ



恋火ほたる火

水かけようと

消せるものでは

ないわいな

ゆうほ



馬鹿じやとけない  
利口はとかぬ  
帯に手をやる  
この謎を  
ゆうほ





いっばいためて 袋につめて

明日ごみに 出しますよ

さくら

朝にゴミ出し ゆうべはもとに

ほんにお前は きりがない

ゆうほ



尾と屁の字は

何故似ているか

心そろられ

眠られず

ゆうほ



グラスに付いた水滴なんて  
恋の涙のほどもない

リーベ

グラスあふれるわたしの涙  
飲ませ奇跡を起こしたい

ゆうほ



好きと言わなきや  
拗ねてるくせに  
肩を抱いたら  
いやと言う

ゆうほ



呑んだらすぐに 寝るのはやめて

後の楽しみ 何もない

さくら

ゆうべ「り」の字で 今夜は「丑」

おれが坊主で おまえ尼

ゆうほ



うちの宿六  
空鉄砲よ

誠も玉も

出てはこぬ

ゆうほ





大波小波に 打ち寄せられて

面白かったわ わが人生

さくら

浮くも沈むも 浮世の泡と

悔いのないよに はじけいく

ゆうほ



禁煙すると  
最後の煙  
今じや立ち消え  
灰になる  
ゆうほ



せつかく咲いた

さくらと人情

散らさずいたい

北の空

ゆうほ



春の宵には散る花なのに  
なぜに散らない恋の花

リーベ

すねた夜風が 邪魔して吹けば  
離れちや嫌と 恋の花

ゆうほ



「好きよ！」言われて

「おれも！」と言った

たったみもじが

三十年

ゆうほ



頬に流れる 涙を見れば

愛しさ募る 夜の花

さくら

振り向く顔に なみだのあとが

白いかわすじ 指で消す

ゆうほ



ゆうべしすぎ  
けさ腰痛い  
ヨガもほどほど

片七

ゆうほ



惚れた素振りを見せたら負けね

だけど負けたい 夜もある

さくら

中途半端に負けさせないで

にげる所は 君の胸

ゆうほ





贈り物など  
心でいいわ

言って値打ちを

押し量る

ゆうほ



ひっくり返して 喜ばないで  
蛙はすぐに 起きられない  
さくら

ひっくり返され 馬乗りなって  
つばを押されて 指圧受け

ゆうほ



負けるもんかど  
心に決めりや  
辛い浮世も  
夢の花

ゆうほ



汚職にまみれ  
住んでるとか  
しつぽ残して  
又周へ

ゆうほ



蝋燭あかりで 三味爪弾けば  
ともに震える 恋心

震える君を 雛抱くように

胸で温め 朝を待つ

リーベ

ゆうほ



覚えちやいないよ  
きのうの事は  
あしたは遠い  
先の事

ゆうほ



願い叶えば 死んでもいいと

これで何回 死んだやら

さくら

死んでもいいと 言うのは聞くで

夜ごと命を かけている

ゆうほ



妻になりたい  
わけではないの  
ひとよおんなに  
なりたいの

ゆうほ





貴方の腕に泣かされたひと

星の数は云わないが

リーベ

泣いた女は星ほどあれど

抱んだ星は おまえだけ

ゆうほ



逃がした魚は  
大物だった

いつもお前は  
逃がしてる

ゆうほ



やけにお前が 美人に見える

酒のせいかな 春霞

さくら

あたしやかぼちやよ 味ある顔よ

見ててあきない 食べりや美味

ゆうほ



千里飛んでも

会いたいあなた

恋すりや

何故に  
遠くなる

ゆうほ



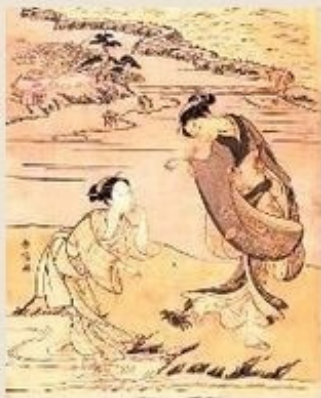
想う気持ちの 半分さえも

届かぬ夜の 春の酒

さくら

あなた横いて 届かぬ思い  
いかに埋めたら よいのやら

ゆうほ



抱いて抱いてと  
言われて頬が

ゆるみ抱きあげ

孫にキス

ゆうほ



海外旅行の  
入国カード  
SEX欄に

週3と

ゆうほ



海外旅行で

年はと聞かれ

顔をあからめ

69

セックスナイ!

ゆうほ





荷物検査で

金ものだせと

言われズボン

脱ぐ男

ゆうほ



「ハロー」は日本語

何だと訊かれ

「オイ！コラー！」これで

一発さ

ゆうほ



ホテル朝食

食べ放題と

言われ食べすぎ

胃腸薬

プーケット奇祭断食祭

ゆうほ



ぎっしり詰まった

オープンコンツアー

帰国してから

又休暇

ゆうほ



観光名所は

写真撮って

本と見比べ

安心する

ゆうほ



オールドパーって あなたのことね

古くてパーで お人よし

さくら

バカボンは あなたのようね

バーボン飲みすぎ ノーテンキ

ゆうほ



酒と恋とは  
ほろよい気分  
過ぎれば苦しい  
時ばかり

ゆうほ



ちがうちがうよ ウイスキーだよ

空きビンだけなら うちにある

さくら

空き瓶枕じゃ 痛いだろうと

そつと膝かし 一人酒

ゆうほ





大酒呑んで

天下も呑んで

女将に呑まれ

でる酒場

ゆうほ



けんかした夜の 気まぜい思い  
一人静かの 夜が更ける

さくら

布団の隅の おまえの足に  
寝返りしたよに ふれてみる

ゆうほ



喧嘩するなら

この子をど覧

徹夜してまで

作った子

ゆうほ



頭痛の種は どこから来るの

いつものあなた 無理ですよ

さくら

痛みあるときや 注射一本

恋のやまいも なおりそう

ゆうほ



浮気心は

数々あれど

常に変わらぬ

下ごころ

ゆうほ



いつかおまえと

「川」の字寝たい

そのまえ「リ」の字

試したい

ゆうほ



四方八方

きづかいしても

生きてゆくのは

四苦八苦

ゆうほ



御用批評家

テレビでしゃべる

金の轡(くつわ)

が見え隠れ

ゆうほ





「心遣い」の  
CMばかり  
「心遣い」が  
ほしいよな  
ゆうほ



節電呼び掛け

深夜も放送

あれば見るのが

世の習い

ゆうほ



鎖切りどり

檻さえ壊し

冥界プルト

暴れだす

ゆうほ



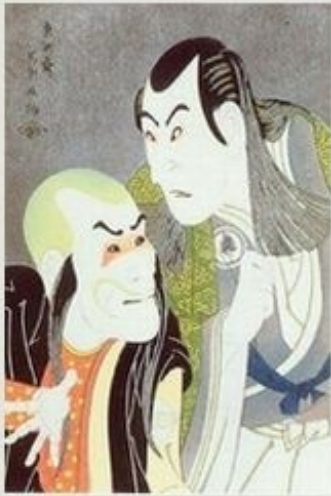
昔塩なら

今エネルギー

国民金玉

手の内さ

ゆうほ



何も思わず  
使った電気  
孫子につけを  
残すまじ

ゆうほ



天災ならば  
諦めもするが  
人災愚災  
悔い残る

ゆうほ



せつかく咲いた

さくらと人情

散らさずいたい

北の空

ゆうほ



怒で集まる

各界トカゲ

しっぽ切つては

又聞へ

ゆうほ





なにが何でも

生きてやるぞと

辛い浮世も

夢が咲く

ゆうほ



いろはの「い」の字は 習いもするが  
習はなくても いろの道

さくら

いまは「あいうえ」やっぱり「あい」よ  
学校で習う 愛の道

ゆうほ



たった一度の  
逢瀬の後は  
三三九度が  
待っている

ゆうほ



男同士で

酒酌み交わし

お国自慢の歌がでる

さくら

もさい男は

お酒とさくら

茶碗叩いて やけ艶歌

ゆうほ



花見宴会

自肅なそうな

踊る阿呆に

見る阿呆

ゆうほ



多情仏心 あなたのことと  
諦めてたわ きのうまで

さくら

今縁奇縁 前世の定め

離れられない ふたりなら

ゆうほ



しもは一寸

したさき三寸

憎いおまえは

五寸釘

ゆうほ



後は静かに 小さな船で

あなたと海へ 帰りたい

さくら

波もないのに 船揺らされて

海の螢も 恋火つく

ゆうほ





上はふたつ身

下ひとつ身で

思いおこせよ

二輪草

ゆうほ



ふたつ返事で

乗ったはよいが

竿をささねば

屋形船

ゆうほ



月にむら雲

わたしの心

こよい濡れそで

宿をとる

ゆうほ



好きなあの方

思うて五年

色はあせない

紅桜

リーベ



喧嘩売るならいつでも買うよ

背負いかごいっばい 持つといで

さくら

喧嘩売ろうと 長屋でひらきや

犬も食わない 夫婦喧嘩

ゆうほ



心づかいも

いいにはいいが

あたしやいいのは

金遣い

ゆうほ



逢わなきやこんな切ない夜を

ひとり落ちてく 夜の底

さくら

逢わなきや半身を 取られたような

長い夜には 堪えられぬ

ゆうほ



あのととき別れ

踏みとどまって

ふたり花観る

今がある

リーベ





逢えない月日を 数えてみても

無情の雨が 降るばかり

さくら

神と仏に 背いてまでも

逢うがふたりの 恋の道

ゆうほ



黙って背中を

合わせるふたり

子ヨシとついで

ほどを見る

ゆうほ



煙草灰皿

金持ち心

溜めりや汚なく

なるものさ

ゆうほ



賄賂と言う字を

考え見れば

貝(金)が各々

有るらしい

ゆうほ



選挙始まり

公約がなる

二股公約？

とりあえず

ゆうほ



忘れないでと 縫って泣いた

あの夜のお前が 愛おしい

さくら

忘れないでと その時すでに

携帯むなしい コール音

ゆうほ



本音はいくつも

心に用意

いつもかわらぬ

下心

ゆうほ



喧嘩じや負けぬと

空鉄砲を

打てど玉出ず

こうべ垂れ

ゆうほ





夜のさくらが 妖しく誘う  
命を預けて 酒を呑む

さくら

ぬしに預けた 命に利子を  
つけてかえそと いらぬこと

ゆうほ



あたしや人気の  
八方美人  
からだひとつじや  
身がもたぬ  
ゆうほ



あなたの胸に 命を預け

今にも散つて しまいそう

さくら

命預けりや 身はぬけがらさ

さそうが突こうが ぬし次第

ゆうほ



子育て終わって

ふたりの会話

犬がいなけりや

はしまらぬ

ゆうほ



あいそ笑いは  
会社でつとめ  
作り笑いで  
家すごす



服を選んで

サイズに文句

私はエスよ

エムじゃない

ゆうほ



自肅の一言

つづらうららに

自縄自縛の

墓穴掘る

ゆうほ



自肅といわれ

気にして委縮

これじゃ他肅じゃ

ありやせんか

ゆうほ





ギターで原奏

替え歌つくり

ネットで削除

戒厳令?

ゆうほ



あなた嘘つき  
安全だよと  
責任とれよに  
想定外

ゆうほ



花粉放射能

飛散がこわい

悲惨な浮世に

誰がした

ゆうほ



あちら民主

こちらは自民

みんな一緒に

頭どり

ゆうほ



誰も反対  
できない道理  
前に出されて  
無理強いを  
ゆうほ



自粛と言われて

さくらもしぼむ

今年しやしきびで

花見する

ゆうほ



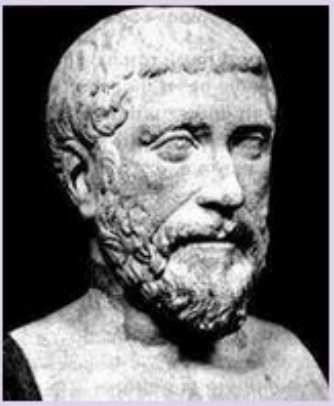
三角関係

もつれて揉めて

解いてほしいの

ピタゴラス

ゆうほ



メタボ奥様

風呂入りあふれ

オット分かった

アルキメデス

ゆうほ





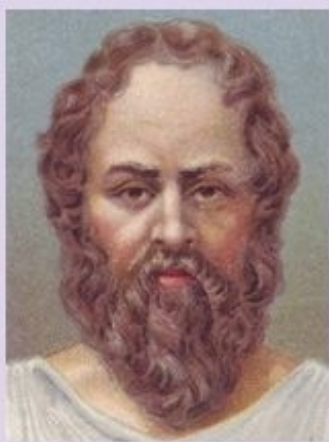
悪妻いなけりや

哲学なんぞ

考えないわ

ソクラテス

ゆうほ



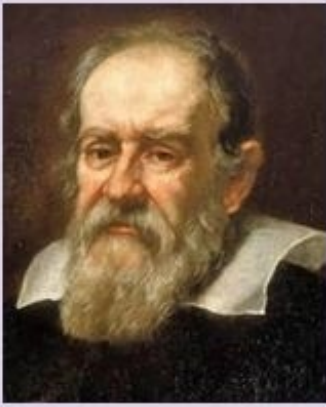
宗教裁判

しらふじやいけぬ

天と目回る

ガリレオ

ゆうほ



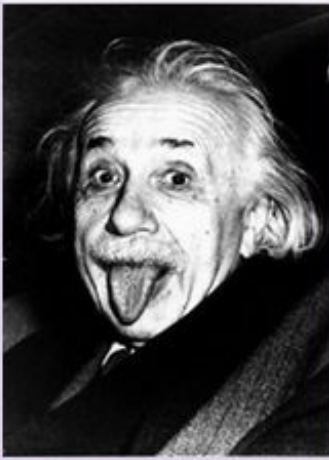
ふたりの関係

解き明かそうと

相対性の

理論こね

ゆうほ



昨夜のみだれ

微笑むモナリザ

秘密にしてね

レオナルド

ゆうほ



おれも作ろう

注精子爆弾

アメリカ女

性伏だ

ゆうほ



徳という紫

背負つてあるく

歳年月を

推し量る

二宮損得

ゆうほ



喜び組を

夜ごと相手に

暴れん坊の

金將軍

ゆうほ



乙な乙姫

遊んだ後は

回春せよと

バイアグラ

ゆうほ





夜ごと機織り  
恩返しより

ふたりからんで

仏壇返し

鶴の恩返し

ゆうほ



男とりかえ

セレブになった

わらしべセレブ

今風に

わらしべおんな

ゆうほ



こんどはおまえと

ゆっくりいくわ

ともに頂上

カメさんと

ゆうほ



今日はあぶない

あしたもだめよ

月の道なら

詳しいわ

かぐやひめ

ゆうほ



年にひと夜じや

満足できぬ

爺(じい)でなければ

身がもたぬ

牽牛

ゆうほ



ここほれワンワン

教えて無駄か

うちの爺さん

ボケの花

ゆうほ



カネでものごと

解決しよと

おまえの根性

焼きつくす

安珍清姫

ゆうほ



熊をあいにてに

四十八手

裏技おぼえ

吉原へ

ゆうほ





キンントン雲乗せ

如意棒つかい

女位かせの

孫悟空

性遊記

ゆうほ



うちの亭主が  
定年なれば  
家事と留守番

しこまなきや  
ゆうほ



旅の湯つかり

湯船があふれ

妻のメタボを

思い知る

ゆうほ



負けてあなたに  
飛びこみたいに  
意地をはらなきや

すまぬ夜  
ゆうほ



腹が出てきた

古女房を

見ても安心

オレじやない

ゆうほ



赤の他人の

おまえに惚れて

今じゃ魚よりも

こい赤に

ゆうほ



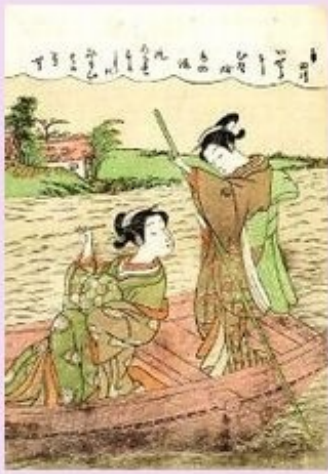
ぬしは後ろで

櫓をこいだなら

あたしや前いて

舵を切る

ゆうほ



妻がパツクの  
時だけ文句  
言うだけ言って  
逃げを打つ

ゆうほ





ぬしと相乗り  
漕ぎだす船は  
嵐こようと  
ふたり連れ  
ゆうほ



涙ながさぬ  
人形よりも

笑い尻をこく

妻がよい

ゆうほ



会社赤字で

社長は黒字

これが辣腕

トップだわ

ゆうほ



社長の椅子は

みんなであわす

運が勝負の

退職金

ゆうほ



保障に修理

バンバン使おう

原発村の

景気良さ

ゆうほ



巨大な赤字も

何するものか

電気料金

上げりや済む

ゆうほ



位こが喚こが

電気は使う

言う事きかなきや

とめりやよい

ゆうほ



慾で集まる

原災村は

毒をながそと

想定外

ゆうほ





他の原発

事故ないうちは

想定内で

安全だ！

ゆうほ



ただちに死ぬこと

ないよといわれ

寿命考え

ああそうか

ゆうほ



人のうわさも

七十五日

万年プルトニウム

勝てやせぬ

ゆうほ



核をばらまく

原発こわい

妻の嚴罰

もつと怖い

ゆうほ



白状しろと

訊けばボソボソ

「レベル7です

チヨット出した」

ゆうほ



医は仁術は  
昔の言葉  
今は算術  
必須だね

ゆうほ



サービス産業と

言われる病院

看護師美人で

固め子ヤオ

ゆうほ



お粥メニューの  
病院食で  
歯だけじょうぶが

恨めしい  
ゆうほ





医者に訊くより  
待合室で

訊けば詳しい

わが病氣

ゆうほ



カルテル書いて

自分も読めぬ

首をひねると

患者ドキッ

ゆうほ



医者と妻とが

ひそひそ喋る

こっちは心臓

バクバクさ

ゆうほ



やっときたよと

救急のれば

たらいまわしで

目もまわる

ゆうほ



ルンルン気分で

採血くれば

看護師ドラキュラ

見える時

ゆうほ



あの看護師は  
美人じゃないか  
用もないのに  
ベルを押す

ゆうほ



あそこの患者  
いけすかないと  
注射痛目に  
刺してやる  
ゆうほ



「おれが絶対

唯一神さ」

うちのカミサン

ありや悪魔？

ゆうほ





奈良の大仏

座ってばかり

しびれ切れれば

世直しを

ゆうほ



見てるだけなら

張子の虎さ

願いきいたか

ハイハイと

ゆうほ



三途の河も

六道銭が

いるとはあの世

世知辛い

ゆうほ



精一杯に

生きてきたのに

閻魔鏡で

何故に向う

ゆうほ



神の都合で  
動物たちも  
僕になったり  
悪魔なる

ゆうほ



神が奇跡を

起こせるのなら

とつくに争い

無い浮世

ゆうほ



ちよつどのお金

あれこれ願ひ

神もそれなり

金次第

ゆうほ



御利益あれば

何でも売れる

神さま高売

大利益

ゆうほ





仏見世物

拝観料を

神も仏も

飯の夕ネ

ゆうほ

本堂内陣  
 拝観料  
 御一名 五〇〇円  
 (三十名以上 団体扱)  
 堂内その撮影、スケッチ等は  
 お断り致します  
 本堂以外の建物は公開致し  
 ません

浮いた税金

交際費だよ

芸者舞子に

ホステスと

ゆうほ



経で鍛えた  
自慢の喉で  
祇園カラオケ  
芸者口説く

ゆうほ



おまええ灰なら

わしや骨壺に

永久についで

冥途旅

ゆうほ



逝った地獄も

住めば都さ

おまけにとわに

不老不死

ゆうほ



天か神かは

しらないけれど

地震津波

何故起こす

ゆうほ



「ほ」の字のおまえが

一本抜けりや

「ま」ぬけとん「ま」に

見えてくる

ゆうほ



父の教えの

「心して生きよ」

今も守って

性の道

ゆうほ

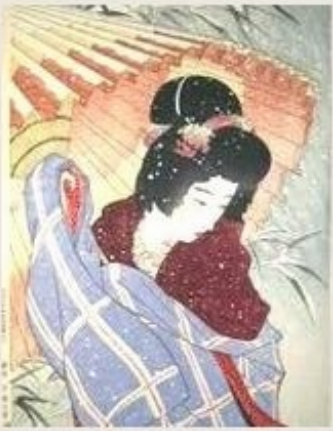




母の教えの  
傘の字見れば  
人が覆って

守るもの

ゆうほ



屁と言うものは

外じやははずかし

部屋の中にて

おと比べ

ゆうほ



母という字は

横なり休む

疲れた婆じや

ないかいな

ゆうほ



愛(I)の私は  
あなたを優(You)に  
醒めたら卑(He)に  
見えるよな

ゆうほ



二人三脚？  
五脚のはずが  
どこでどうなる

婆かな

ゆうほ



好きか嫌いか  
訊くよな野暮は  
恋のいろはも  
ちりぬるを

ゆうほ



二度と開かぬ

わが身をぬしは

指先ひとつ

またひらく

ゆうほ



恋の願掛け

お百度よりも

一度の口づけ

願叶う

ゆうほ





バットで三振  
振り逃げうまい  
浮世この手で  
ホストなる

ゆうほ



老なくなれば

パスするラグビー

女探めれば

決まわす

ゆうほ



棒で  
つついて  
穴入れうまい  
ハスラー  
ジゴロが

昼と夜

ゆうほ



三P組んで

まってる棒に

しがみ付いたら

のぼりつめ

ゆうほ



ガチンコ勝負は  
夜だけやって

昼は八百長

土俵うえ

ゆうほ



人の嫌がる  
所を狙う  
性格悪いと  
嫁行けず

ゆうほ



わが身こけよが  
落としちやならぬ  
玉にいのちを  
かける魔女

ゆうほ



いつの間によら  
抜いては刺した  
鞘に納めて  
知らぬ顔

ゆうほ





周り良く見て  
足で勝負さ  
頭使って  
だましうち

ゆうほ



やろとおもうな  
思えば逃げる  
奥に生きてる

下ごころ

ゆうほ



さしてほしいと  
思っていたに  
滴で濡らす  
君の袖

ゆうほ



こいをつるには

良い餌と竿

これで釣れなきや

金がいる

ゆうほ



喜多川歌麿 《金魚》

拗ねたそぶりの  
おまえの癖は  
そつとべ  
ル押しや  
またひらく

ゆうほ



たった一つの  
誠の糸に  
すがって落ちりや

地獄池

ゆうほ



蝦  
で釣れるよな  
タイではないわ  
竿に誠を  
つけてみな

ゆうほ



散らそと枯らそと  
おいらの腕さ  
水の加減の

難の

しき  
ゆうほ





花見込み合う

さくらの木より

おまえと寝そべる

草の上

ゆうほ



逢えた嬉しさ

隠そとしても

頬がものいう

ピンク色

ゆうほ



おまえ命と  
肌墨いれて

色の変わらぬ

恋あかし

ゆうほ



惚れずいれるさ  
いつでも戻る

言った時には

恋地獄

ゆうほ



あなただけしか  
開かぬ花は  
夜を待ってる

月見草

ゆうほ



事が終わった

あなたの背中

帰り仕度の

方を向く

ゆうほ



手に手をとって  
言うたじゃないか  
それを手切

れじゃ  
金ばさみ

ゆうほ



おまえ愛して  
一途に生きて  
子ヨツト先いく

三途川

ゆうほ





夢のなかでも  
つれないあなた  
好きと言ったら

目が覚める

ゆうほ



口八丁に

手八丁

おまけに足は

達者もの

ゆうほ



あ  
た  
し  
胸  
う  
ち  
見  
透  
か  
し  
遊  
ぶ  
ど  
こ  
か  
憎  
め  
ぬ  
う  
ち  
の  
ひ  
と  
ゆ  
う  
ほ



悪い所は  
私に似たと  
夫似てない  
言いわけを

ゆうほ



恨みつらみの  
添え状書いて  
閻魔さまあて

棺桶に

ゆうほ



捨てるも殺すも

私にや同じ

主に命を

消されたい

ゆうほ



ふられ上手な  
おまえだけけれど  
あきらめ下手な

野暮な奴

ゆうほ



わたしや野良猫

愛想もできぬ

情けすがれる

世じやないわ

ゆうほ





浮氣の虫を  
探してみれば  
臍下三寸  
死んだふり

ゆうほ



角はいらない  
やりだけだして

どこをさそうか  
かたつむり

ゆうほ



おまえ狐で  
おれ狸なら  
今モノヘンゆえ  
狂う仲  
ゆうほ



おんなひっかけ  
地に落とすとは  
土瓶落としか  
ひもなのか

ゆうほ



オタマジヤクシは  
一匹だけが  
それがお前だ

奇跡だろ

ゆうほ



尻で光って

恋する螢

頭光って

恋も消え

ゆうほ



俺が獅子なら

おまえは牡丹

夫婦看板

ししつばな

ゆうほ



蟻の暮らしと  
人比べれば  
蟻が幸せ  
見えるよな  
ゆうほ





猿山国会

似てるじゃないか

派閥ボスの座

追い落とし

ゆうほ



今までの短冊本と文章本は下記からご覧ください。

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸Part1 短冊完結

<http://p.booklog.jp/book/18432>

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸Part2 短冊完結

<http://p.booklog.jp/book/18285>

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸Part3 短冊完結

<http://p.booklog.jp/book/20624>

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸Part4 短冊完結

<http://p.booklog.jp/book/21269>

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸Part5 短冊完結

<http://p.booklog.jp/book/22137>

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸 文章編 執筆中

<http://p.booklog.jp/book/17722>

執筆中の本は、毎日更新連載中です。

4月20日以後の短冊本Part7 になります。

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸Part7 短冊本執筆中

<http://p.booklog.jp/book/24721>

ゆうほ 4月20日 ペナンの海の上より

ちょっと危ない色艶都々逸笑って許して！ Part6 短冊本

<http://p.booklog.jp/book/23574>

著者：ゆうほ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/uoboat/profile>

発行所：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/23574>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/23574>